

令和元年度 第三回大阪府貝塚南高等学校 学校運営協議会議事録

日 時：令和2年2月18日（火） 15：30～17：00

場 所：大阪府立貝塚南高等学校 会議室

出席委員・事務局(敬省略、順不同)

吉川 測雄 氏

山田 利彦 氏

岸田 米夫 氏

加田 博之 氏

南 芳治 氏

藤野 信治 氏

1 校長挨拶

朝から府立学校説明会では新型コロナウイルスへの対応についての説明があった。

2 委員の紹介

3 会長挨拶

少子化のため職員数が減る中で学校の対応が求められる。

4 報告

- ・平成31年度学校運営計画及び学校評価について(別紙参照)
 - ・評価指標に達しなかったものの説明
 - ・学校生活に関する項目
 - ・保護者連携に関する項目
 - ・学校運営に関する項目

質疑応答

- ・特になし

- ・次年度学校運営計画についての説明(別紙参照)
 - ・確かな学力の育成
 - ・学力向上委員会
 - ・生徒主体の学習へ
 - ・授業観察・学校視察
 - ・授業規律・授業改善

- ・進路指導PT
- ・安全安心な学校環境
- ・スクールソーシャルワーカー[新規]
- ・保護者・地域との連携
- ・保健総務部の改編、保健部へ

5 協議事項

- ・年末からタブレット端末を導入しているが具体的にどのように役立っているか。

→職員会議は、ペーパーレスでおこなっている。情報共有をタブレット端末で行うことができ、教員は仕事の効率化を図っている。生徒・保護者については来年度からスマートフォンを使用して、連絡や学習のサポートを実施する。さらに、生徒分のタブレットも揃ってくるとより授業で活用ができる。

- ・遅刻回数等の数値目標は本当に達成可能な数なのか。

→課題になっているのは、指導が形骸化しているので、なぜ遅刻がだめなのかを教える必要がある。今の指導の方法になって6年程立つので見直す時期ではある。

- ・規律については時代が変わっても人として守るべきことで信用にも繋がるので、よろしく願いたい。

- ・子どもが卒業するので、PTA役員は今年で終わりだが、この三年間多くの親御さんをPTAに参加させたいという思いでやってきた。実際会長になってみるとなかなか難しかった。力不足だったと思っている。PTAに入り3年間やってきて、代表として学校運営協議会にでるのはこの一年だけだったので、学校の変化がわかりにくく感じた。

→今まではPTA係、同窓会係というかたちでやってきたが、今後は学年の先生を交えて総会を盛り上げていきたい。創立50周年が近づく中であるので、同窓会の組織作りに力を入れる。PTA係という形ではなく担任がもっと関わるようにしたい。その辺り、首席に取りまとめをしてもらう形で考えている。PTAの方々も子どもが卒業した後も、後援会、同窓会という形で関わっていただききたい。

- ・もっと、直接子供たちと接してほしい。教員のカウンセリングマインドが上がれば、子どもの気持ちがキャッチしやすくなる。子ども達の自己肯定感が高くなり、先生のような人になりたいと思うような子どもも増えればよいのでは。ソーシャルワーカーやカウンセラーがいなくてもすべての先生がカウンセリングマインドをもって子どもと接するような研修体制を考えてもらいたい。

また、教員同士の意思疎通が少ないと学校教育自己診断アンケートには出ていたが、先生方自身にもそのようなマインドがあれば、子どもをどう育てるかといった提案がお互いにしやすくなるのではないか。

→次年度、スクールソーシャルワーカーには5回程度来てもらう予定だが、そのうちの1回は教員の研修にあてている。1年生で行った学級診断尺度調査や様々なアセスメントの方法も含めて、自分の意志でなく学校に来れない生徒を無くしたい。

各学年より説明（別紙参照）

1年

総合的な学習の時間が総合的な探究の時間になる。3年計画で内容をブラッシュアップしていきたい。

2年

修学旅行の事後アンケートについて(別紙参照)

昨年と行程自体はほとんど変化はないが、全体としてアンケートの評価は高かった。学校交流については交流する学校を変えたが結果としては良かった。生徒同士頑張って交流していた。

3年

進路について

- ・AO入試に多くの生徒が挑戦した。
- ・進路の決定した生徒は多いが、志望校について高望みをしない傾向にあった。

総合的な学習の時間について

- ・校外学習についてエリアを決め自分たちで計画を立てさせて自由に散策した。
- ・生徒からの要望があり、3年生が主体となって2時間のレクリエーションをした。

学校教育自己診断について(別紙参照)

経年変化の説明

行事の日程や内容の見直しについて。

保護者向けアンケートについて(別紙参照)

校長より

→次年度の修学旅行については海外を中心に考えている。より生徒が自分たちで計画を立て、自主的な活動ができる形にする予定

質問等

・現3年生について、進路でまだ決まっていない生徒の状況は

→大学を合格している生徒が増えている。より早い時期から継続して勉強する生徒が増えればよりレベルの高い大学をめざすことができる。遠くに目標を持つことが大事で、進路PTや学力向上委員会がそこに働きかけられるようなことを検討している。

・学力にあった進路に向かって頑張らせて欲しい。

どこの高校も2年生くらいで諦めてしまう生徒が

多いが、その時期に先生方がどう声をかけるかが大事では。

→将来の職業観をもつために、どういうことを3年間でするか、教員も、生徒も保護者もわかるように進路マップを作ることが必要である。

将来の夢、目標の部分と小さな目標を設定していってあげなければならない。実力考査に対してどういう勉強をさせてどう結果をみしていくかを考えている。スモールステップでの達成感をつくるのが大切だと思っている。

・現2年生は入試のシステムが流動的で生徒達が不安を感じている。担任の先生や進路担当の先生がきちっと進路指導をして取り除いてあげてほしい。

○入学希望者がまた定員まで達していない。私学のどこが良くて、貝塚南は私学に比べどこが劣っているのか。

→交通の便の問題がある。進路が明確に決まっている生徒はその進路に特化したコースのある私立を専願とする傾向があるのでは。

私学に流れているのは、私学無償化の影響は大きい。私学の宣伝の仕方や、入試の時期も影響しているのでは。

・大学入試はどう変わるのか。変化があるのなら情報が欲しい

→それほど大きな変更はない。問題を読み取る力が求められている。

・中学では縮小気味になってきており、そうなると行事を減らすなど学校が守りに入っていきがちである。何かやらないと学校から力が無くなってしまふ気がする。

6 校長あいさつ